

IV. 平成 30 年、令和元年の死亡概要

1. 富山県のがんの死亡の概要

富山県においてがんを原因として死亡した者は、平成 30 年は男性 1,990 人、女性 1,450 人、合計 3,440 人であり、令和元年は男性 1,975 人、女性 1,517 人、合計 3,492 人であった。部位別の死亡数は、男性は肺に続き、胃、大腸（結腸・直腸）、膵臓、肝臓が多く、女性は、大腸（結腸・直腸）に続き、平成 30 年は膵臓、肺、胃、乳房の順、令和元年は胃、肺、膵臓、乳房の順に死亡数が多い状況。

図 10-1 部位内訳（H30 年、表 9 から作成）

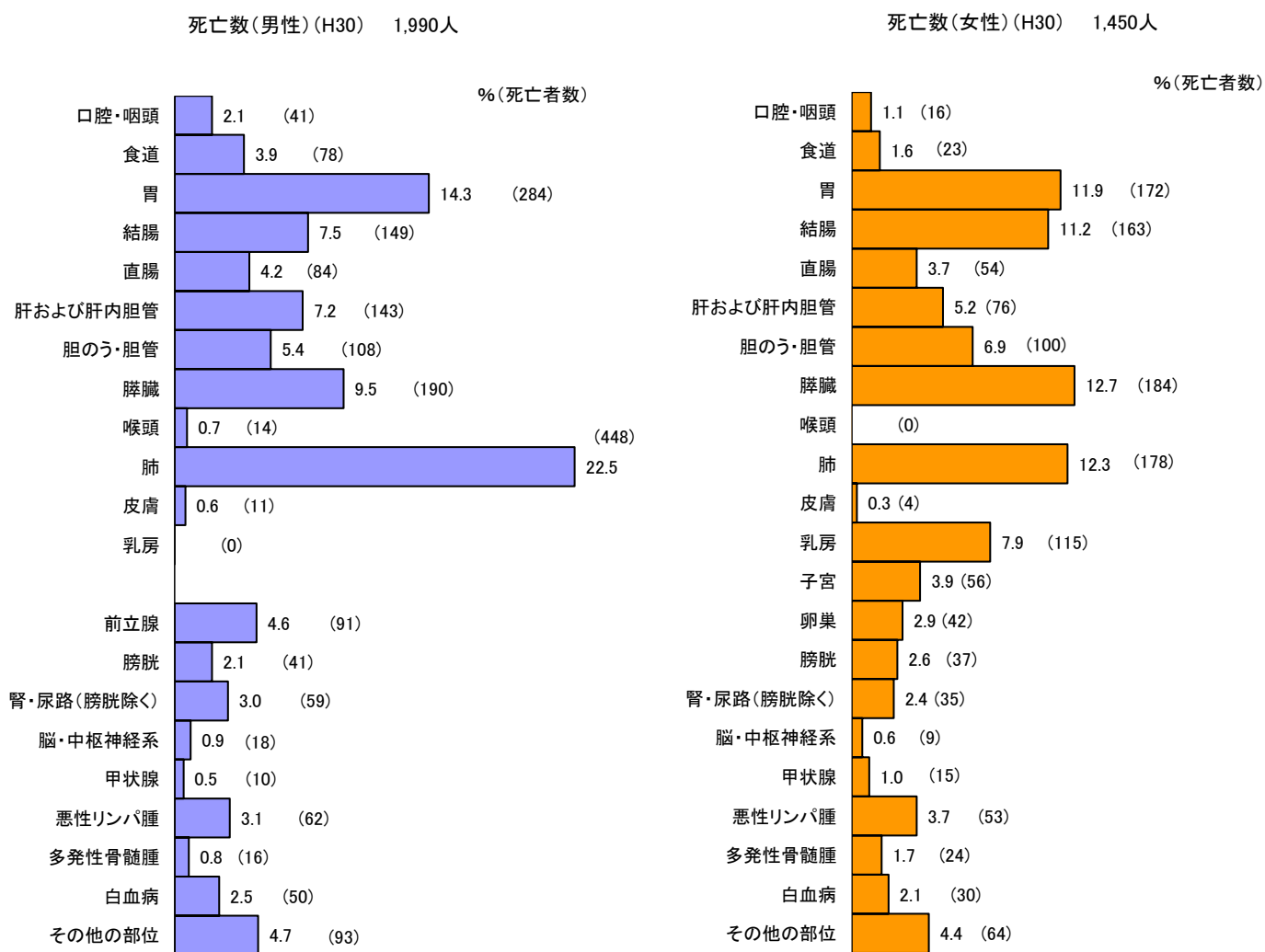
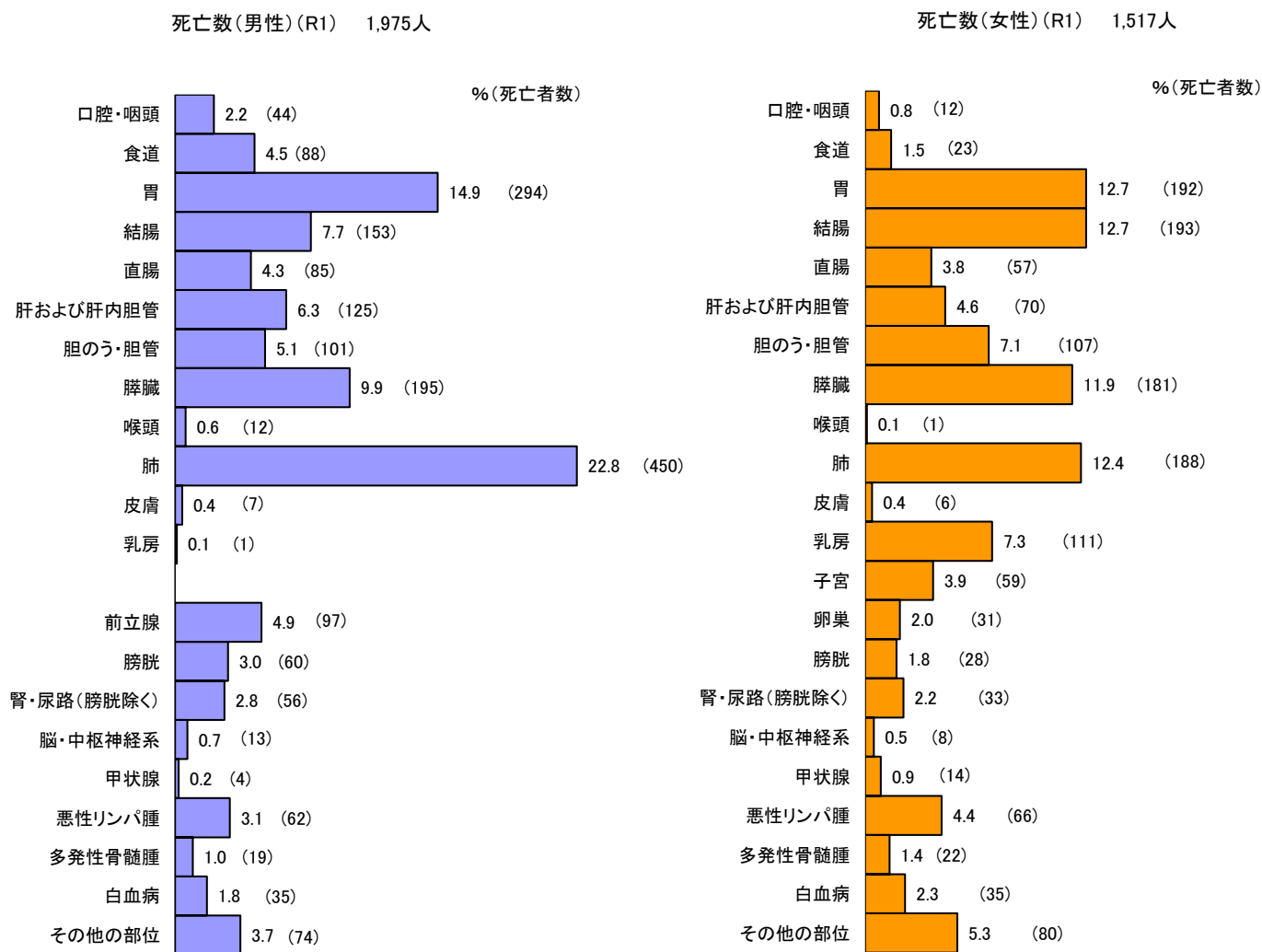


図 10-2 部位内訳 (R1 年、表 9 から作成)



2. 年齢別に見たがんの死亡

富山県で平成30年および令和元年にがんで死亡した者のうち、男女とも約65歳以上が9割を占めた（図11）。部位別年齢階級別死亡率では、ほとんどの部位において、年齢が高くなると罹患率が高くなるため、年齢とともにがんによる死亡率も高くなっていった。また、各年齢階級別死亡率は、男性のほうが女性よりも高い傾向がみられた（図12）。

図11-1 年齢内訳（H30年、表10から作成）

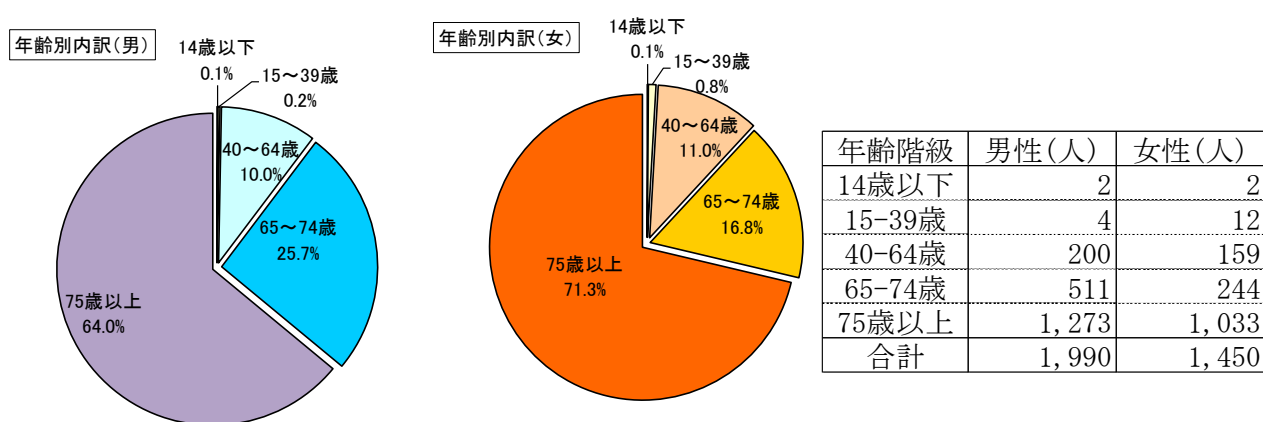


図11-2 年齢内訳（R1年、表10から作成）

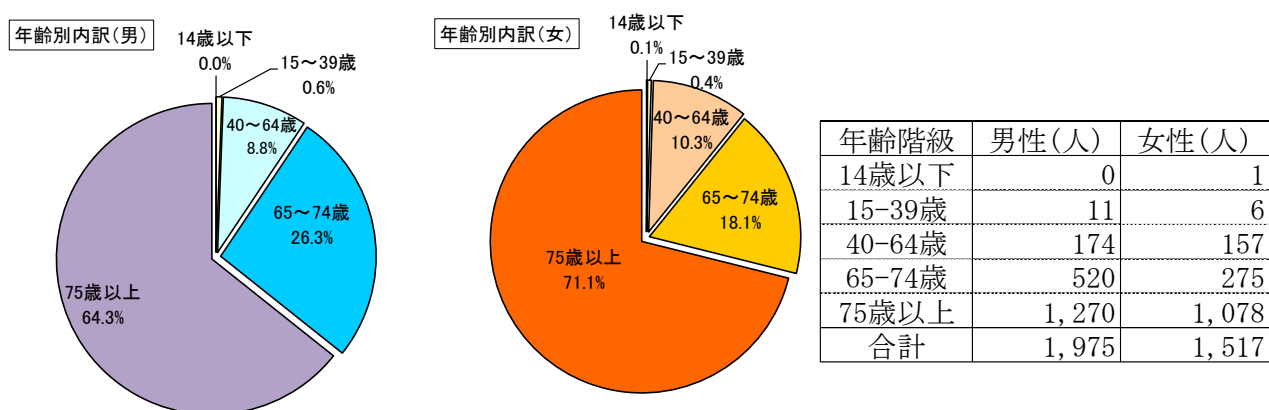
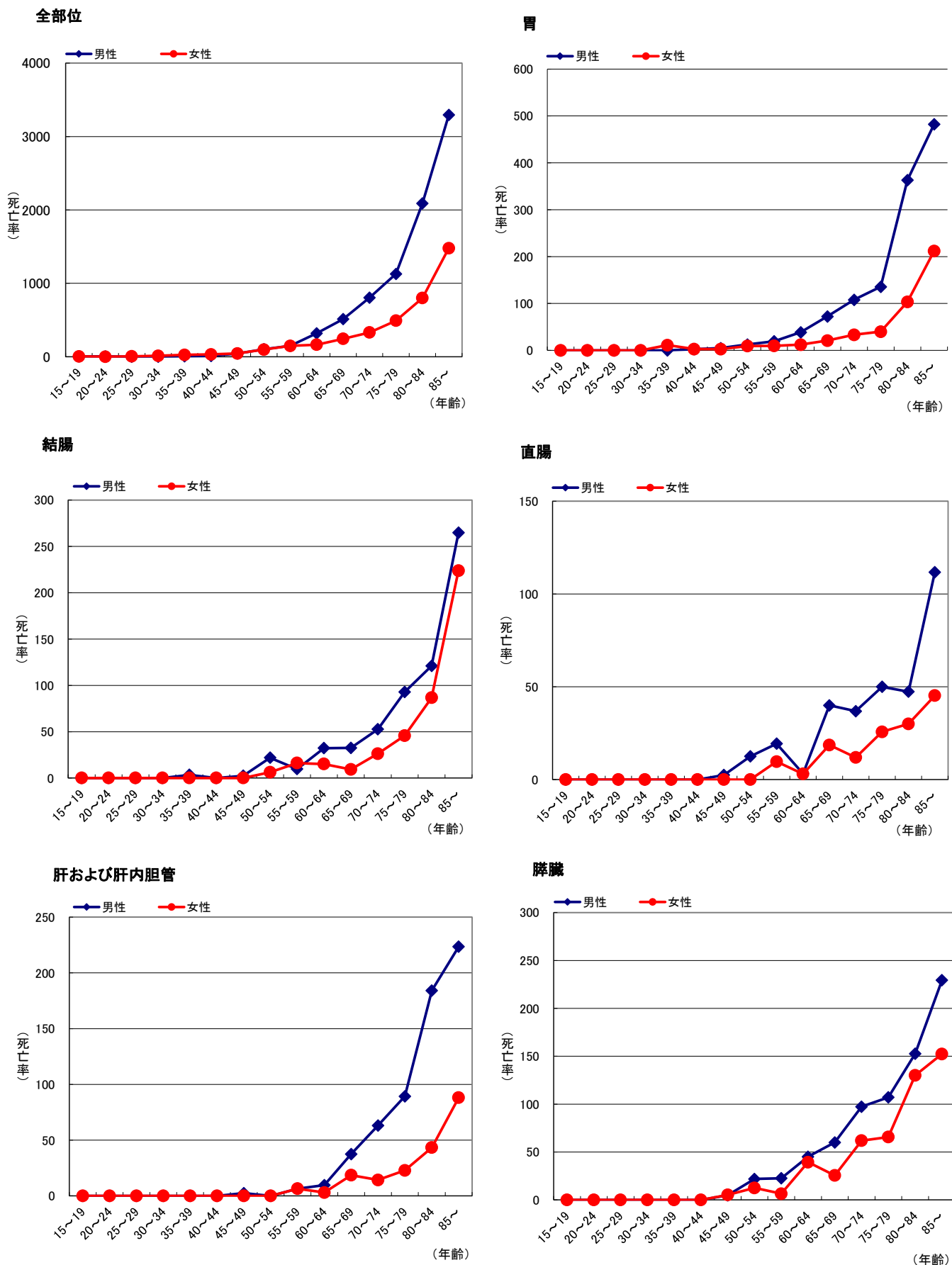
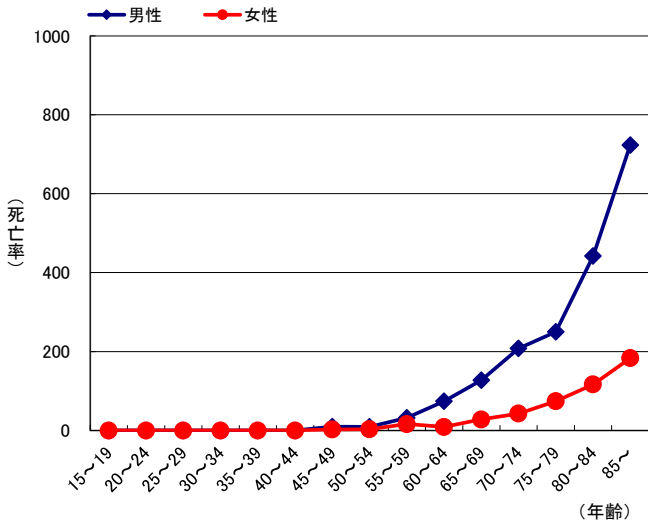


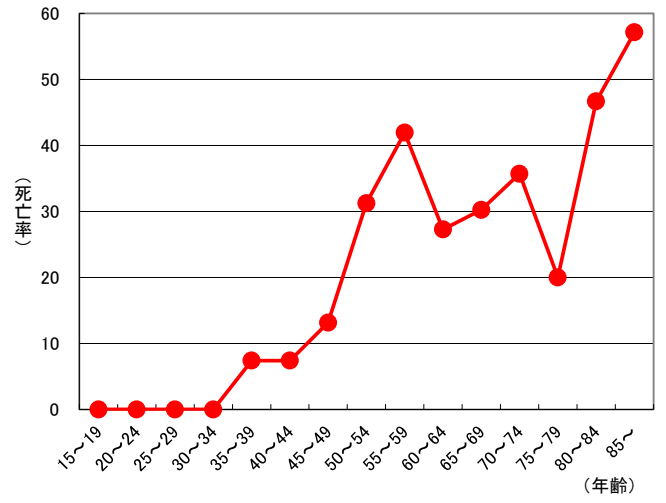
図 12-1 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対（H30 年、表 11 から作成）



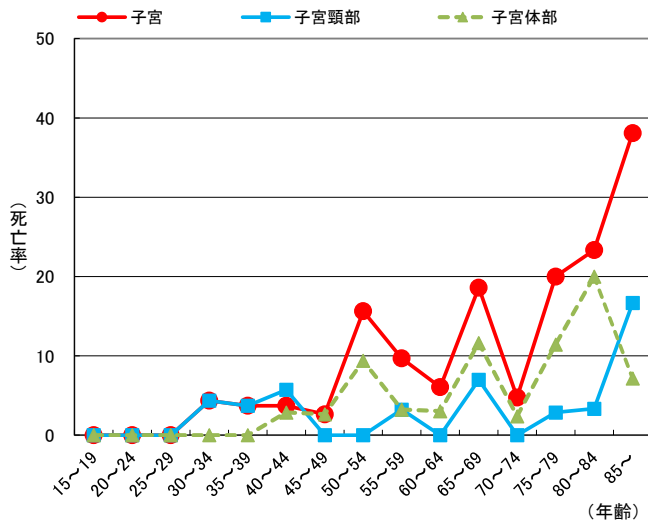
肺



乳房(女性)



子宮



前立腺・卵巣

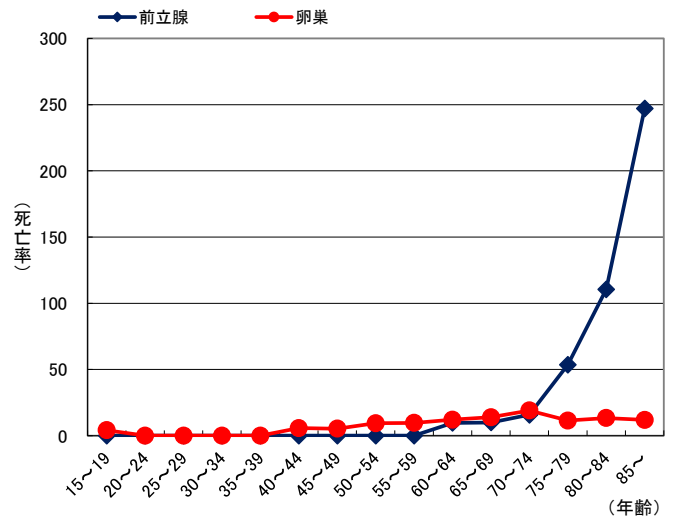
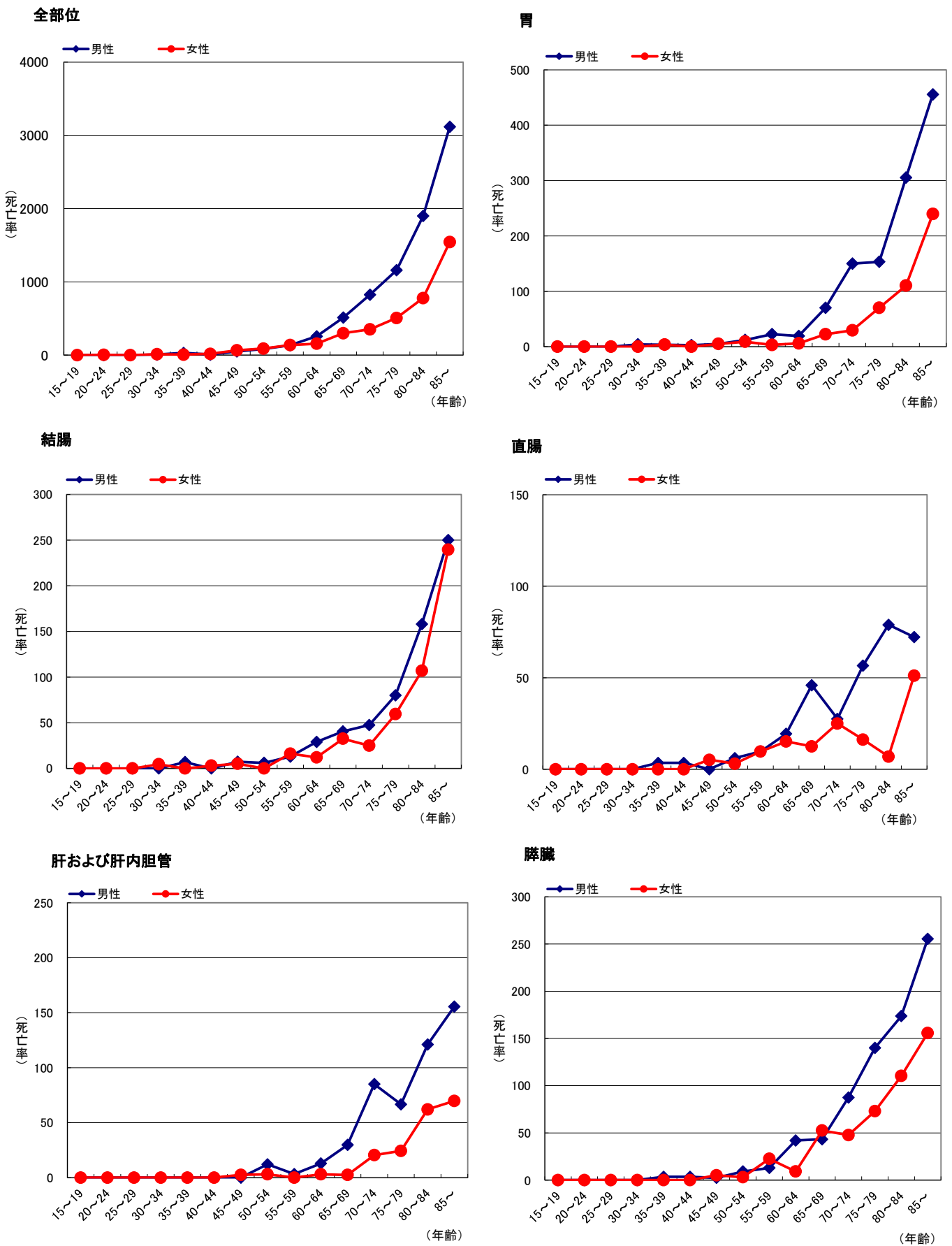
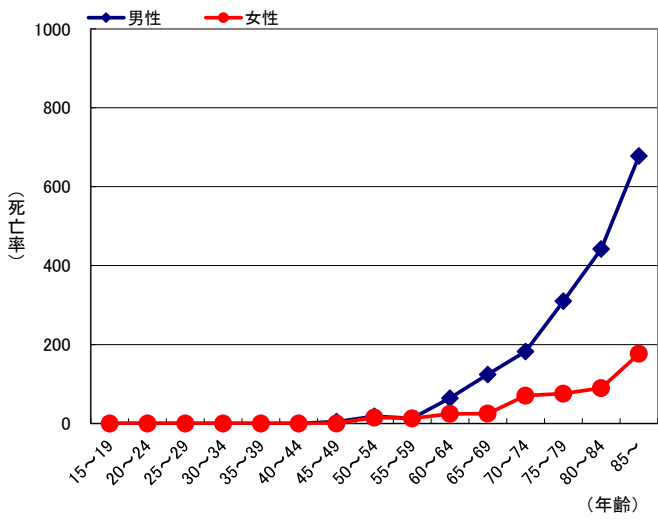


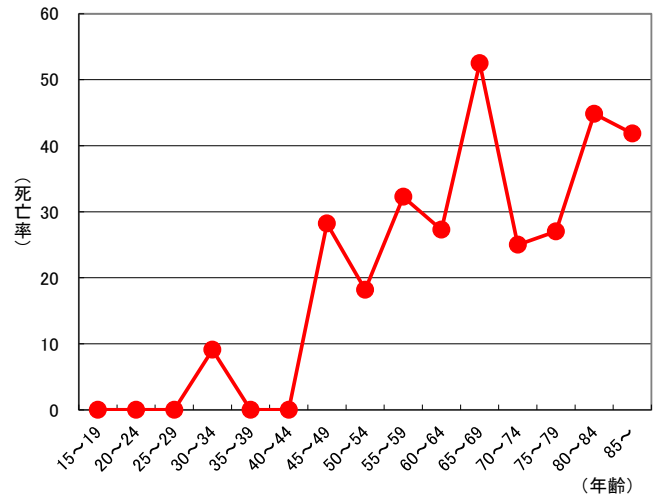
図 12-2 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対 (R1 年、表 11 から作成)



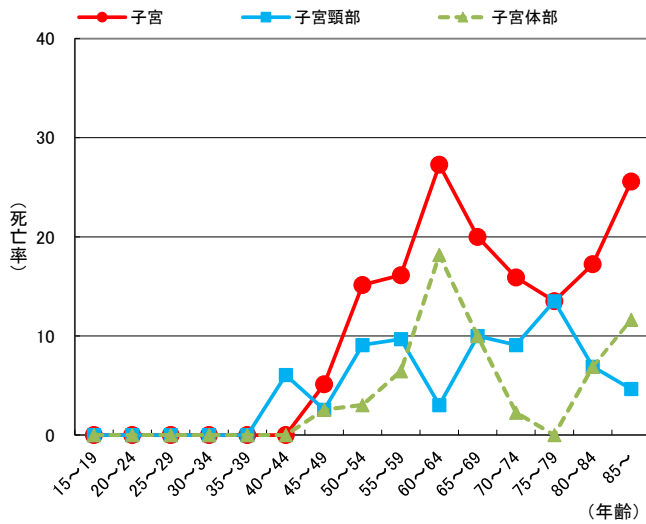
肺



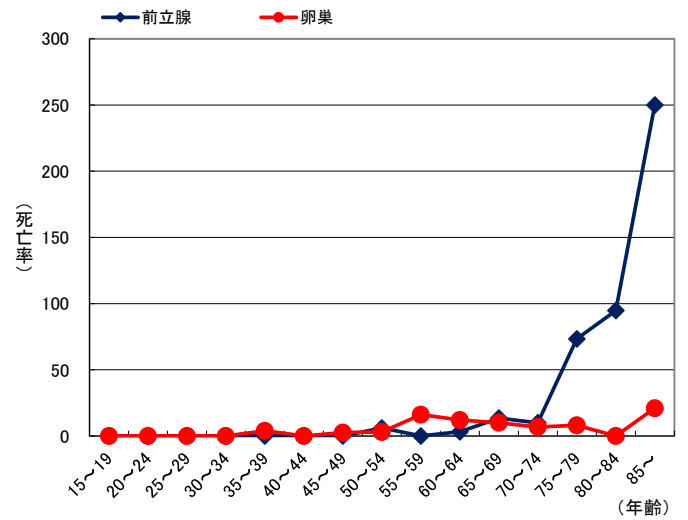
乳房(女性)



子宮



前立腺・卵巣

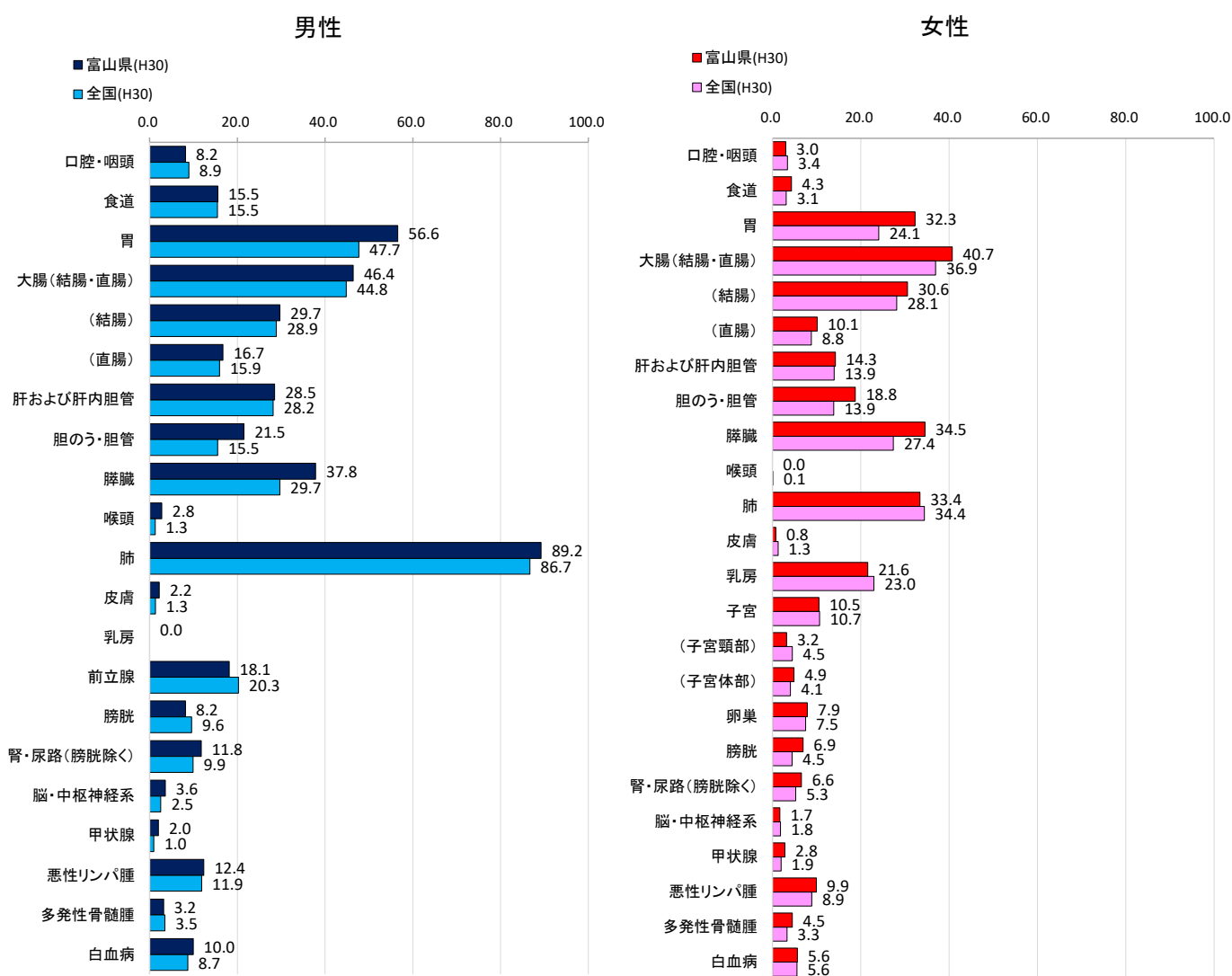


3. 富山県のがん死亡の特徴

平成30年および令和元年の本県と全国の粗死亡率を比較すると、調査年による変動はあるものの、胃、大腸、膵臓が男女ともに全国値よりも高い。一方、前立腺、女性の乳房は全国値よりも低い（図13）。

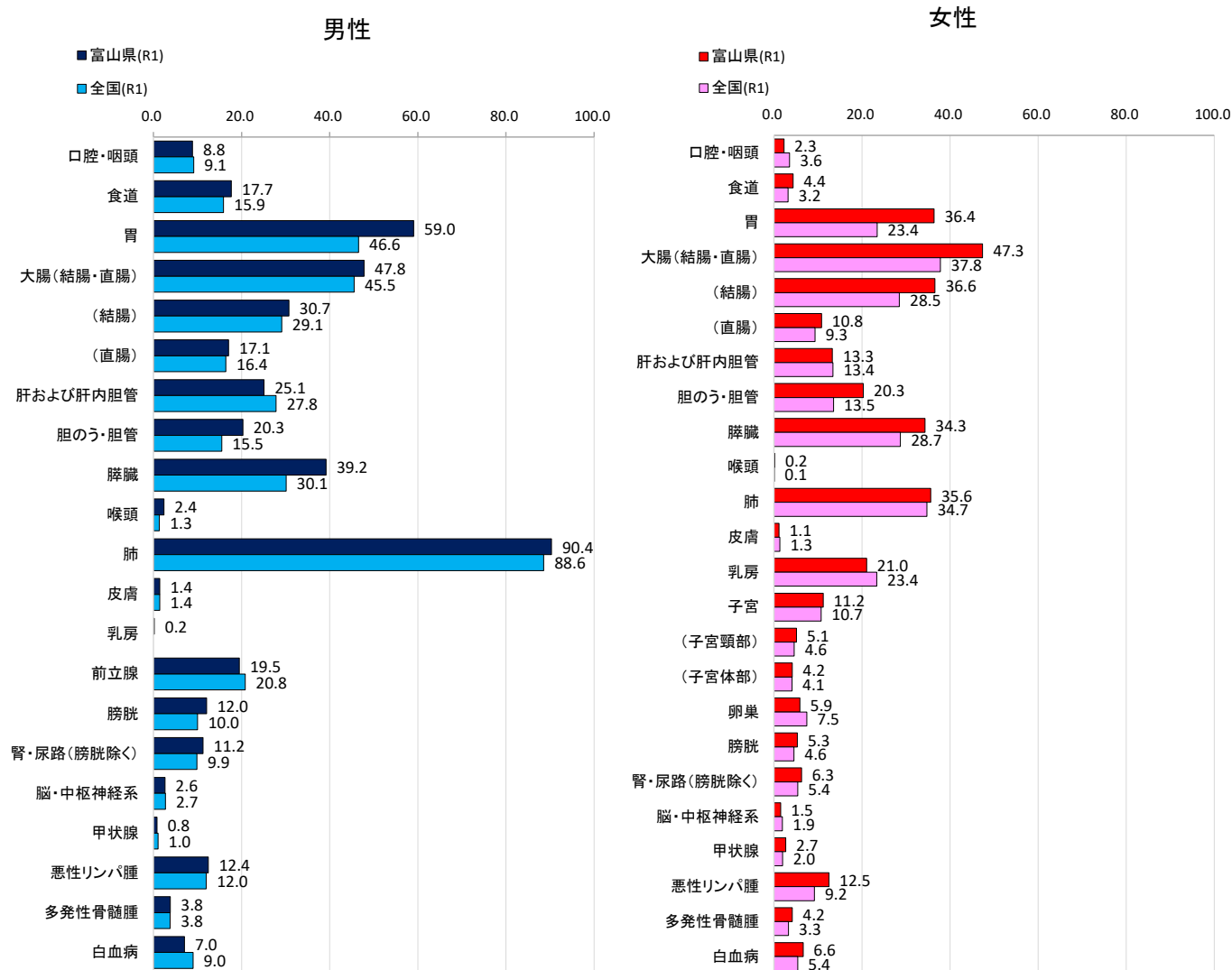
年齢調整死亡率を比較すると、男女共に胃、膵臓が全国値よりも高い。一方、男性の肺、前立腺、女性の肺、乳房は、全国値よりも低い（図14）。

図13-1 部位別粗死亡率：人口10万対（H30年、表9から作成）



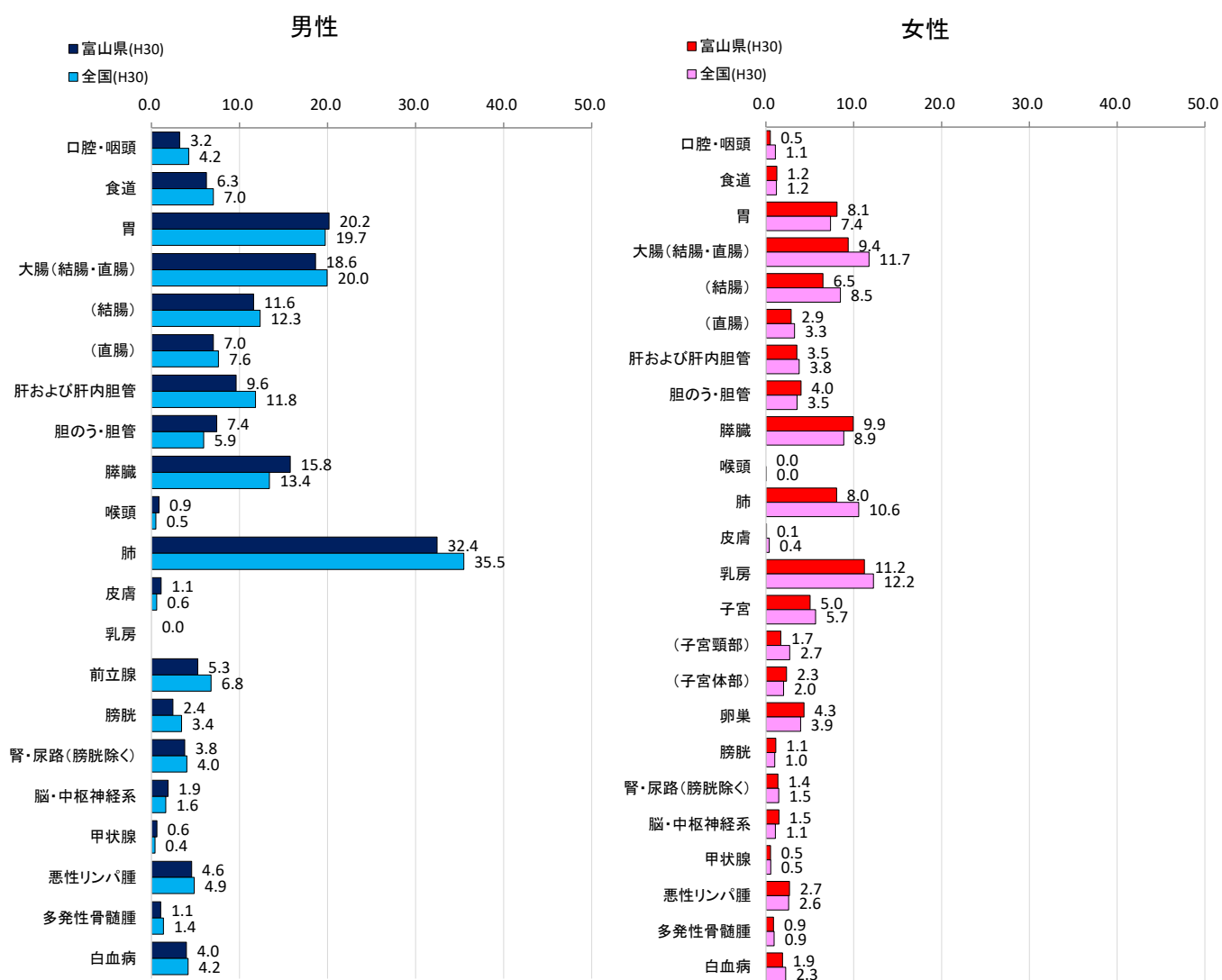
全国値は国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」の「全国がん死亡データ（1958年～2021年）」から引用した

図 13-2 部位別粗死亡率：人口 10 万対（R1 年、表 9 から作成）



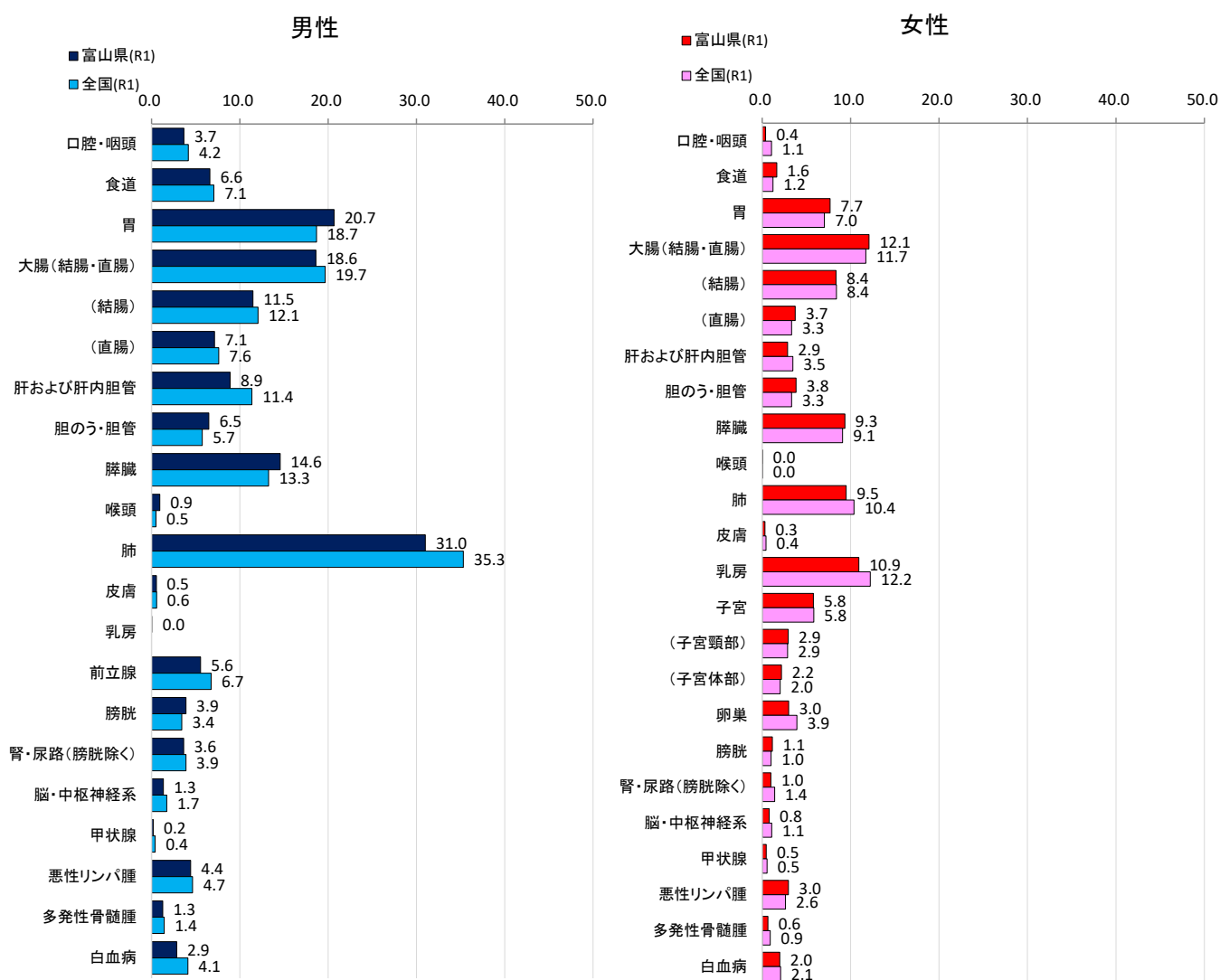
全国の値は国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」の「全国がん死亡データ（1958年～2021年）」から引用した

図 14-1 部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対（H30 年、表 9 から作成）



全国値は国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」の「全国がん死亡データ（1958年～2021年）」から引用した

図 14-2 部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対（R1 年、表 9 から作成）



全国値は国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」の「全国がん死亡データ（1958年～2021年）」から引用した